

(一社) 極真会館 三重県「型」競技試合規約

1 型試合進行方法

① 予選

選手は演武順番を事前にくじにより決定し、その順番で予選指定型を行い10点満点の得点順で予選順位を決め、原則として予選15名以上の決勝進出者は8名とし、予選14名以下の場合は半数を四捨五入した人数を決勝進出者とする。

② 決勝

① 決勝は指定演武型をトーナメント方式で行い旗判定にて優劣を決める。

② 決勝は予め決められた順位に乗っ取り演武者は2名同時か1名ずつかで決勝指定型の演武を行う。

2 演武指定型

極真会館指定型に限る。

① 大会審判長の判断により予選型・決勝型の変更もありうる。

3 型試合審判員

原則、主審1名 副審4名の5審制とする。

4 型試合の判定（予選の場合）

① 10点を満点で採点し、審判員の最高点及び最低点を除いた残る判定点を合計として、選手の得点数とする。3審制の場合は3人の合計点を選手の得点数とする。

② 得点数が同点の場合、次の順に従い順位を決める。

イ 最低点の高い方の順位が上となる。

ロ 最高点の高い方の順位が上となる。

ハ 主審の得点の高い方の順位が上となる。

ニ 以上の順位でも順位が決まらない場合は2人同時に指定型で演武を行ない赤白旗判定で決する。

5 服 装

イ 選手は白い清潔な道着を着用の事。

ロ 道着の袖は巻き上げてはならない。

ハ 女子は道着の下に白いTシャツを着用の事。

ニ 男子の道着の下のTシャツは禁止。一部例外を認める事もある。

ホ 長髪は必ず髪を結ぶ事。

へ マニキュア・アクセサリ・過ぎる化粧は禁止。

6 採点基準

① 7点を基準点とし減点法、加点法の併用により10点満点で競う。

減点、加点の基準は次の通りとする。

動作の正確さ	① 立ち方、突き、蹴り、打ち、受けのそれぞれの技が正確であること。 ② 中間動作が適切であり、無駄な動きが無いこと。 ③ 重心の移動やバランスが優れていること。
技の緩急	① 早く動くところが早く動いている。 ② 穏やかに動くところが穏やかに動いている。 ③ 連続動作が用法に即したリズムで動いている。
力の強弱	① 力の入れるところに適当な力が入っている。 ② 力を抜くところで力が抜けていること。 ③ 技の威力がしっかりと表現できている。
息の調整	① 息吹や気合いが適切にできているか。 ② 呼吸の乱れがなく動作との調和が図れているか。

上記の他に次の項目で減点または失格となる。

① 演武開始時選手が言う型名と実際の演武型が異なる場合（失格）
② 競技場から両足が出てしまった場合（失格）
③ 競技場から片足が出てしまった場合（減点）
④ 型演武を中断した場合は失格。一時中断の場合は、主審の判断で合議の上 減点とする。
⑤ 型の動作の間違い。
⑥ その他の問題が生じた場合は主審が判断し、合議の上判断する。
⑦ 判断に迷う場合は、型競技審判長の裁可に従う。

7 演武進行方法

① 選手は、呼名されたら場外線の中に入って一礼をし、演武開始場所に立つ。

② 主審の「正面に礼」の号令で礼をする。

③ 主審が右手を高く上げ「始め」の合図で型の演武を行う。

④ 型を開始する際は、黙想をし、大きな声で正確に型名を言ってから息吹を開始する。（型名を申告する際、型名を絶叫してはならない。）

⑤ 型の演武が終了したら自分でなおり主審の号令を待つ。

⑥ 主審の「判定お願いします判定」の号令で一斉に採点を行いすみやかに集計し、予選順位を決め、決勝選出者を確定する。

⑦ 主審の「正面に礼」の号令で選手は礼をして退場する。

⑧ 選手は競技場から出るときは、場外線の手前で正面に礼をしてから競技場の外にでる。

8 決勝進出者人数について

◆予選人数が15名以上の場合 決勝進出者人数8名

◆予選人数が15名未満の場合は以下の基準で決勝進出者人数を決める。

イ 予選人数の半数を基準とし余る場合は1名を加えた数を決勝進出者とする。

ロ 予選人数が2名の場合は予選を行わない。

9 全日本空手道選手権大会「型」の部選抜大会 権利獲得者数

決勝進出者人数⇒

8名以上 → 4名

3名～7名 → 2名

2名 → 1名

1名 → 予選指定型を演武し選考